

終章

序章に記した通り、仙台白百合女子大学が、シャルトル聖パウロ女子修道会を母体として生まれ、宮城県仙台市において短期大学家政科として歩み始めてから 40 年余、女子教育の役割を担ってきた。カトリック精神に則り、人間学部という一学部のみの小規模の女子大学として各学科を基調とする専門職教育を基に人間教育を目標としている。毎年、就職率が全国平均でも高い率を示している現状も社会にそれなりに評価されるひとつの結果とも自負している。

少子化現象に伴い、大学希望者全入学という問題の渦中であって、本学がこれまで以上に真剣に取り組まなければならない多くの課題のなかで、学生の指導、地域との連携、奉仕活動は言うまでもなく、教員各自の研究活動・活性化をおろそかにしてはならない。

教員自らの自覚が優先してこそ、大学の維持・発展は約束されるのである。本学としても、今後さらに研究助成金や特別研究費の制度を設け、教員の意識を鼓舞したいと考えている。また、さまざまな入試の方法も研究しながら、学生の受け入れ体制も入試委員をはじめ、全教職員一丸となって見直す努力も進んでいる。

全章を一読して、本学の自己点検評価は、まだまだ不十分なところもあり、より充実した改善・改革への絶えざる努力によって、本学のカトリック精神を土台とする存在意識を発揮できるよう努力してゆく所存である。

最後に、自己の研究・教育活動など、繁忙の日々の中で諸調査や原稿執筆などなどに、協力してくださった委員、その他の教職員、研究室助手の熱意に感謝と敬意をささげて、終章の言葉を締めくくりたい。

学長 片岡 照子